

本学の名称変更に伴い、「明治鍼灸医学」に代わる「明治国際医療大学誌」の1号が発刊されたのが2009年。本号では、はや30号となり、発刊から15年が経過しました。その15年の間に、本邦の大学を取り巻く環境は大きく変わりました。大学の軸の1つである教育では、大学教育改革の波が押し寄せ、主体的な学修を通じた多様な人材の育成を行うべく、教育の手法・やり方は大きく変わりつつあります。それと同時に急速なIT化・デジタル化が進み、15年前と比べて大学教育が大きく変化し、大学教員の教育への effort はかなり増えてきたと言っても過言ではないと思います。大学のもう一つの軸である研究でも急速なIT化・デジタル化が一端となり、研究手法の急速な発展などによって、各分野の進展は目覚ましいものがあります。その一方で、大学（もしくは各研究者）はリサーチ・インテグリティ（研究公正）を自律的に確保しなければならず、教員の研究者としての責務はますます大きくなってきました。見方によっては、大学教員は研究への effort を増やさなければ、より良い研究ができなくなってきたと言えるでしょう。我々大学教員は、教育と研究のバランスをうまくとりながら、その2つを推し進めなければならない時代に生きているのだと感じています。

さてそのような時代の中、大学が発行する学術ジャーナルとしての「明治国際医療大学誌」は、研究を進める各教員に対して、どのような情報を発信していけば良いのか、発刊から15年が経過した現在、あらためて考えていかねばならない時期を向かえているのではないのでしょうか。上記の各教員の教育への effort の増加だけが問題ではなく、各研究分野の進展に伴い専門ジャーナルへの投稿をより考える教員の意識変化、急速なIT化・デジタル化に伴う各ジャーナルの投稿の利便性増加とアクセプトまでのレスポンスの高速化などで、投稿者に対する本大学誌の優位性は薄れつつあります。発刊から16年目に突入する中、大学誌としての在り方、すなわち本学にとって皆様にとって必要な学術ジャーナルとは何かをこれまで以上に議論し、「明治国際医療大学誌」はより“深化”していかなければならないと考えています。

最後になりますが、ご投稿いただいた著者の皆様、お忙しい中査読いただいた先生方、編集いただいた編集委員会委員と図書館司書の方々に深謝申し上げます。

明治国際医療大学誌編集委員会
副委員長 林 知也

明治国際医療大学誌編集委員会

糸井 マナミ、林 知也、伊藤 和憲、奥田 正作、
木村 隆彦、田口 玲奈、田中 小百合、千田 いずみ

編集事務局

629-0392 京都府南丹市日吉町 明治国際医療大学附属図書館内

E-mail: uni_libr@meiji-u.ac.jp

明治国際医療大学誌 第30号 (2023)

編集・発行 明治国際医療大学誌編集委員会

発行日 令和6年3月31日

印刷 株式会社プリントパック
